

ニカラグア定期報告（2015年7月）

2015年8月
在ニカラグア日本大使館

【要旨】

〈内政・外交〉

内政では、8日、野党系デモグループと治安当局との衝突が起こった他、19日には、アレサ・ベネズエラ副大統領、ディアス・カネル・キューバ国家評議会副議長等出席の下、サンディニスタ革命36周年記念式典が開催され、オルテガ大統領が演説を行った。外交では、15日、16日、馬英九台湾総統がニカラグアを訪問し、オルテガ大統領とカリブ海側の港建設に係る協力等につき協議した。また、22日、23日には、宇都外務大臣政務官がニカラグアを訪問し、オルテガ大統領等と会談した。

〈経済〉

ムーディーズによる当国の格付けが7年ぶりに引き上げられ、「B3」から「B2」となった。また、IMFは中米・パナマ・ドミニカ共和国地域会議において、客年のニカラグアは域内で民間投資が最も多かったと評価した。一方、6月行われた世論調査結果によると、両大洋間運河に対する国民の期待は下がりつつあり、運河計画を疑わしいとする回答率は半年で2倍に増加した。

【主な出来事】

1 内政・外交

(1) 野党系デモグループと治安当局との衝突

8日、約2か月前より毎週水曜日に行われている最高選挙管理委員会前における、2016年大統領選挙に向けた現行選挙法の改正を求める野党系デモ行進グループが国家警察特殊部隊と衝突する事案が発生した。これまでの野党系グループによるデモは平和裡に行われており、治安当局との衝突は今回が初めてである。デモ隊には、独立自由党（PLI）、サンディニスタ刷新運動（MRS）、国家民主主義運動（MDN）の幹部が参加しており、本衝突により、計15名が一時的に拘留され、そのうちの多くはPLI議員であった。

(2) 馬英九台湾総統の来訪

15日、16日、馬英九台湾総統がニカラグアを訪問し、オルテガ大統領と会談した。オルテガ大統領は、馬総統に対し、南部カリブ海岸自治地域におけるモンキー・ポイント港建設計画の支援を要請した。馬総統は、実施済みの（同港建設計画の）F/Sを当地台湾公館を通して提供して欲しい、右を分析・評価した上で、同計画に対する支援が可能か正式な回答をしたいと述べた。なお、香港計企業HKND社がコンセッションを有する両大洋間運河建設計画において、モンキー・ポイント港建設は含まれておらず、プンタ・アギラ（モンキー・ポイントより約5Km南に所在）に港が建設される計画である。

(3) サンディニスタ革命36周年記念式典における大統領演説

19日、当地においてサンディニスタ革命36周年記念式典が開催され、アレアサ・ベネズエラ副大統領、ディアス・カネル・キューバ国家評議会副議長の他、中米諸国の元大統領、エクアドルより教育大臣、キューバより「5人の英雄」等が出席した。オルテガ大統領は、演説の中で、ニカラグアの発展、麻薬・組織犯罪の取締に触れた他、米国こそが重大な人権侵害国である旨の反米的発言をした。

(4) 宇都外務大臣政務官のニカラグア訪問

22日、23日、宇都外務大臣政務官は、日・ニカラグア外交樹立80周年を記念し、ニカラグアを訪問した。22日には、オルテガ大統領及びサントス外相との会談を行い、二国間関係の強化について協議した。

2 経済

(1) ムーディーズ社による格付けの引き上げ

格付け会社ムーディーズは、今後のニカラグアの経済見通しを「安定」とし、7年ぶりに格付けを「B3」から「B2」に引き上げた。複数の専門家は、近年の好調なマクロ経済が評価された結果であるが、「信用リスクが高いと判断される」あるいは「ジャンク債」カテゴリーであることに変わりはないと述べている。また、ムーディーズは、外貨建て債務のカントリー・シーリングをB2からB1へ、外貨建て銀行預金のカントリー・シーリングをCa a 1からB3に引き上げた一方、自国通貨建て債務のカントリー・シーリングをB2からB3へ、国内通貨建て銀行預金シーリングをB2からB3へ引き下げた。また、債務及び預金の短期格付けは、引き続き、どの格付け範疇にも属さない、重大なリスクがあり、極端に投機的である「NP」となった。

(2) 2015年6月の世論調査結果

民間調査会社M&Rが6月19日～7月2日に実施した世論調査結果によると、ここ6ヵ月間、両大洋間運河に対する国民の期待は下がりつつある。2014年12月にはF/Sの結果で実現性が認められた場合、運河計画は実現すると応えていたのは74.1%であったが、2015年6月には65.7%となり、疑わしいとする回答率は2倍に増加した。また、国内の主要課題の内、経済的課題を最も懸念しているとは回答したのは全体の72.4%に上り、そのうち失業・貧困・価格高騰を不安視する国民は7割以上となった。

(3) IMFによるニカラグア経済の評価

第13回中米・パナマ・ドミニカ共和国地域会議(CAPDR)において、IMFは、ニカラグアの経済成長率は、本年は4.6%、2016年は5%となり、パナマと共に地域の経済成長を牽引すると予測した。また、IMFは、2014年、ニカラグアは民間投資が最も多かったと評価し、今後もニカラグアにとって米国、中米及びEU諸国が主要輸出国となると予測した。CAPDRの開会式において、古澤満宏IMF副専務理事は、中米はさらに成長を加速させるとともに、富をより均等に分配せねばならない、貧困削減と

長期的な社会的ニーズへの対応が何より重要であり、加速度的で包括的な経済成長が求められると述べた。また、同副専務理事は、インフラ、人的資源、治安及びガバナンス等の改善のため、生産性向上のための変革とさらなる民間投資の誘致が必要であると述べた。また、ニカラグアは同会議において、財政及び金融面のリスクがなく、家族送金額、海外直接投資、外貨準備高はいずれも適切であると評価された。

<主要経済指標>

	2015年			2014年	2013年
	7月	6月	5月		
インフレ率（前年同月比）	3.1%	3.8%	5.2%	6.9%	7.7%
貿易収支(百万ドル)	未発表	△239.1	△256.0	△2,824.7	△2,817.7
輸出 FOB(百万ドル)	未発表	218.4	222.9	2,624.5	2,400.7
輸入 FOB(百万ドル)	未発表	457.6	479.0	5,449.2	5,218.4
海外送金（百万ドル）	未発表	93.1	104.9	1,135.8	1,077.7
外貨準備高(百万ドル)	未発表	2,346.2	2,447.1	2,276.2	1,993.0

（出典：ニカラグア中央銀行）